体育授業における組織風土測定の有効性について
－ 体育実技における組織風土の推移を通して －

木　本　泰　洋

四　天　王　寺　大　学　紀　要
大　　学　　院　第１６号
人文社会学部・教育学部・経営学部　第５５号　2013年３月
短　期　大　学　部　第６３号
（抜刷）

体育授業における組織風土測定の有効性について
－体育実技における組織風土の推移を通して－

木　本　泰　洋

要旨：指導と評価の一体化が今後の教育活動をより良いものにしていく上で重要度を増している。そこで、どのように学習者を評価していくのかが課題となる。企業では理念や社風などソフト面の研究の中に組織風土が研究されている。組織風土の定義を「仕事環境で生活し活動する人々が直接的にあるいは間接的に知覚し、メンバーのモチベーションおよび行動に影響を及ぼすと考えられる一連の仕事環境の測定可能な特性である」と述べている(Litwin & Stringer(1968))。企業と学校とに違いがあるが、成員の知覚を測定するというパラダイムは一致すると考えた。そこで先行研究においてアンケート調査を実施し因子分析の結果 8 因子 68 項目の質問項目を導き出した。8 因子 68 項目から 1 因子代表的な 2 項目を選択し、16 項目の質問項目を作成した。本研究は、16 項目の質問項目が教育における組織風土として活用できるか調査することと、アンケート調査の結果から学生の組織風土の変化を明確にすることを目的とした。結果として、運動や体育に対して肯定的な考えを持つ学生の平均値は肯定的な組織風土の下では高く、定的な考えを持つ学生の平均値は否定的な組織風土の下で高いことから、今回採用したアンケート調査項目が有効なものであると言える。

キーワード　組織風土、モチベーション、雰囲気、学習意欲、組織風土測定

Ⅰ．目的

教育基本法が改正されたことに基づき教育三法が改定された。これらの改訂を踏まえて学習指導要領も改訂された。体育における目標は小学校、中学校、高等学校の一貫性を踏まえて、生涯にわたり運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力、体力の向上を掲げられている。また、今日における求められる体育の学習について、永島は「運動の価値に魅力を感じ、この魅力を原動力とする自発的な学習つまり、内発的な動機による主体的な学習」[1)] であるとしている。つまり、学習者の動機（モチベーション）をいかにして高めていけるかが重要となってくる。また、観点別評価についても学習意欲を向上させる必要性を述べていることから、学習意欲をどのようにして測定し、また、どのように評価をしていくかが課題となってくると思われる。

企業において職場環境が従業員に与える影響について研究がされている。それらの研究[3)4)]の中で組織風土についての研究に着目した。組織を運営していく上で企業の特徴として社風、組織文化、組織風土などが挙げられる。これらの概念が曖昧であるものの、組織文化は組織風土の上位概念とされ、Litwin & Stringer(1968)は組織風土についての定義を「仕事環境で生活

し活動する人々が直接的にあるいは間接的に知覚し、メンバーのモチベーションおよび行動に影響を及ぼすと考えられる一連の仕事環境の測定可能な特性である」[2] としている。

教育環境と仕事環境が全く同じものであるとは言えないが、環境がモチベーションに与える影響におけるパラダイムが同じであると考えた。そこで、先行研究[5] にて企業仕様である 16 因子 80 項目あるアンケート調査を教育仕様に言語を変換し、アンケート調査を実施した。その結果から因子分析を行い 8 因子 68 項目の質問項目を導き出した。この質問項目を元にして 8 因子 16 項目の質問項目を作成し、アンケート調査を行い因子分析の結果、4 因子 16 項目にとなった。本研究の目的として、この質問項目の有効性を調査すると同時に、学生が感じた組織風土の変化と感じた雰囲気を解明することとする。

Ⅱ．方法

１．調査対象：大阪府Ｓ大学教育学部大学生（男子学生　16 名、女子学生　27 名）

２．調査内容：第 2 回から第 15 回まで、毎回アンケート調査を実施した。

３．授業内容

（１）授業期日：(2011 年 4 月 8 日～2011 年 7 月 22 日）

（２）場　　所：大阪府Ｓ大学

（３）授業概要

１）授業区分：選択

２）種目選択の過程：「サッカー」「卓球」「生涯スポーツ」の内、「生涯スポーツ」を選択した学生を研究の対象とした。

３）授業目的：各々の能力を駆使し、他の学生と旨くコミュニケーションをとり、上手にゲームを展開していけることを目的とする。

４）授業の流れ

第 1 講義：オリエンテーション

第 2 講義：ハンカチ落とし、
馬跳び、大縄跳び

第 3 講義：フルーツバスケット

第 4 講義：ドッジボール、鬼ごっこ

第 5 講義：キックベース

第 6 講義：キックベース

第 7 講義：ドッジボール

第 8 講義：アルティメット

第 9 講義：タッチフット、サッカー、
だるまさんが転んだ

第 10 講義：サッカー

第 11 講義：ドッジビー

第 12 講義：卓球

第 13 講義：リレー、缶ケリ

第 14 講義：ドロケン

第 15 講義：バスケ＆バレー＆卓球

（4）調査方法

授業終了後に学生にアンケート調査を実施した。

4．調査項目

企業において作成された組織風土尺度を体育授業に対応できるように言葉を転用したもの 80 項目を対象に因子分析を行った。なお、回転前の８因子で 68 項目の全分散を説明する割合は 63.77%であった。この結果を元にして連続した調査ができるようにするため、8 因子の各々の代表的な項目２つを抽出した。今回の調査項目を 16 項目として体育授業における組織風土測定をおこなった。

Ⅲ．結果

1．体育授業の組織風土性尺度の分析

（1）組織風土性尺度の分析

夏学期の中頃である 8 日目の組織風土尺度 16 項目の平均値、標準偏差を算出した結果、天井効果とフロア効果の項目に該当するものがなかった。16 項目に対して主因子法による因子分析を行った。固有値の変化は 6.632、2.781、1.716、1.335、0.800・・・というものであり、4 因子構造が妥当であると考えられる。

表1　最尤法・プロマックス回転による共通性

	初期	因子抽出後
1 仲間同志で足を引っ張り合うような雰囲気がある。	0.7702	0.7813
2 ユニークな発想や新しいアイデアが積極的に採りあげられ活用されるところがある。	0.8667	0.7807
3 一般にこの体育授業の教員は、学生の失敗や起こした問題に対して自ら最終責任をとってくれるところがある。	0.7856	0.6560
4 大勢に逆らって反対意見を述べたり、異質な意見を主張したりすると、嫌がられるようなところがある。	0.7902	0.7339
5 いつもワイワイガヤガヤと活発で明るい雰囲気が漂っている。	0.8301	0.6268
6 何事につけ、周りのものと競い合うような雰囲気がある。	0.8237	0.6559
7 教員にいちいちお伺いをたてなくても、自分の裁量で学習をどんどん進めていくことができる。	0.8994	0.8848
8 一時的にぎくしゃくすることがあっても、葛藤を避けず腹を割って話し合うことがよしとされる雰囲気がある。	0.7875	0.5825
9 各人の個性をのびのびと発揮することができる。	0.6300	0.6205
10 無責任な、評論家的発言がまかり通るところがある。	0.7871	0.9426
11 たとえよい結果がでなくても、地道な努力を続けていけば、評価されるところがある。	0.8042	0.7643
12 喜怒哀楽をストレートに出しても、教員から咎（とが）められることはない。	0.7415	0.6584
13 長いものには巻かれろ的な雰囲気がある。	0.7776	0.5338
14 新しい試みをして失敗したとしても、そのことだけでマイナスの評価を受ける心配はない。	0.8593	0.7167
15 この体育授業では人一倍の成果をあげたとしても、報われることが少ない。	0.7628	0.5718
16 お互いに競争意識をもち、切磋琢磨（せっさたくま）する気風がある。	0.8331	0.8242

因子抽出法：最尤法

プロマックス回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表 2 に示す。回転前の 4 因子で 16 項目の全分散を説明する割合は 77.90%であった。「各人の個性をのびのびと発揮することができる。」の項目だが、第１因子、第３因子において因子負荷量が 0.4 を超えているが第 4 因子が最も因子負荷量が高いことと全体としてきれいな因子構造となっているので、除外をしなかった。

第１因子は、6 項目で構成されており、「たとえよい結果がでなくても、地道な努力を続けていけば、評価されるところがある。」、「教員にいちいちお伺いをたてなくても、自分の裁量で学

習をどんどん進めていくことができる。」など、自主的自発的な学習態度が望める組織風土の内容の項目が高い因子負荷量を示していたことから、「自立的」な組織風土と命名することにした。

第2因子は、3項目で構成されており、「お互いに競争意識をもち、切磋琢磨する気風がある。」、「新しい試みをして失敗したとしても、そのことだけでマイナスの評価を受ける心配はない。」など、仲間と協力し合い、励まし合う組織風土の内容の項目が高い因子負荷量を示していたことから、「協調的」な組織風土と命名することにした。

第 3 因子は、「大勢に逆らって反対意見を述べたり、異質な意見を主張したりすると、嫌がられるようなところがある。」、「仲間同志で足を引っ張り合うような組織風土がある。」など、個性を引き出すことが難しい組織風土の内容の項目が高い因子負荷量を示していたことから、「日和見的」な組織風土と命名することにした。

第 4 因子は、「無責任な、評論家的発言がまかり通るところがある。」、「喜怒哀楽をストレートに出しても、教員から咎められることはない。」など、個人の意思が自由に出せる組織風土の内容の項目が高い因子負荷量を示していたことから、「自由的」な組織風土と命名することにした。

表2　組織風土性尺度の因子分析結果（プロマックス回転後の因子パターン）

	項目内容	1	2	3	4
11	たとえよい結果がでなくても、地道な努力を続けていけば、評価されるところがある。	**0.8731**	-0.0178	-0.1893	0.0276
7	教員にいちいちお伺いをたてなくても、自分の裁量で学習をどんどん進めていくことができる。	**0.8134**	0.2225	0.0264	0.0198
2	ユニークな発想や新しいアイデアが積極的に採りあげられ活用されるところがある。	**0.7394**	0.2224	-0.0598	0.0875
3	一般にこの体育授業の教員は、学生の失敗や起こした問題に対して自ら最終責任をとってくれるところがある。	**0.7086**	-0.0069	0.3038	0.0308
5	いつもワイワイガヤガヤと活発で明るい雰囲気が漂っている。	**0.7069**	0.1623	-0.2958	-0.0678
6	何事につけ、周りのものと競い合うような雰囲気がある。	**0.6215**	-0.0449	-0.1216	0.3863
16	お互いに競争意識をもち、切磋琢磨（せっさたくま）する気風がある。	0.1734	**0.8278**	-0.0457	-0.0112
14	新しい試みをして失敗したとしても、そのことだけでマイナスの評価を受ける心配はない。	0.1165	**0.7349**	-0.0140	0.2021
8	一時的にぎくしゃくすることがあっても、葛藤を避けず腹を割って話し合うことがよしとされる雰囲気がある。	0.3790	**0.4725**	0.0135	0.1208
4	大勢に逆らって反対意見を述べたり、異質な意見を主張したりすると、嫌がられるようなところがある。	0.2166	-0.3849	**0.8147**	-0.0286
1	仲間同志で足を引っ張り合うような雰囲気がある。	-0.3445	0.3527	**0.7895**	0.0251
15	この体育授業では人一倍の成果をあげたとしても、報われることが少ない。	-0.3424	0.1211	**0.6631**	0.2580
13	長いものには巻かれろ的な雰囲気がある。	0.3503	-0.2634	**0.4408**	0.3478
10	無責任な、評論家的発言がまかり通るところがある。	0.0071	0.0937	0.1558	**0.9154**
12	喜怒哀楽をストレートに出しても、教員から咎（とが）められることはない。	0.2062	0.1874	0.0273	**0.6478**
9	各人の個性をのびのびと発揮することができる。	0.4199	0.3078	0.4160	**-0.4593**
	因子間相関	1	2	3	4
	1	—	0.4260	0.1119	0.3343
	2		—	0.1373	0.1254
	3			—	0.1429
	4				—

（2）下位尺度間の関連

組織風土性尺度の 4 つの下位尺度の相当する項目の平均値を算出し、「自立的」下位尺度得点（平均　3.990,　ＳＤ　0.669)、「協調的」下位尺度得点（平均　3.993,　ＳＤ　0.665)、「日和見的」下位尺度得点（平均　3.054,　ＳＤ　0.878)、「自由的」下位尺度得点（平均　3.722,　ＳＤ　0.577）とした。内的整合性を検討するために下位尺度のα係数を算出したところ、「自立的」でα＝0.896、協調的」でα＝0.850、「日和見的」でα＝0.791、「自由的」でα＝0.371であった。

組織風土性の下位尺度間相関を表 3 に示す。「自立的」と「協調的」との間に正の有意な相関、「自立的」と「自由的」との間に正の有意な相関、「協調的」と「自由的」との間に正の有意な相関、「日和見的」と「自由的」との間に正の有意な相関を示した。

表3　組織風土性の下位尺度間相関と平均、標準偏差、α係数

	自立的	協調的	日和見的	自由的	平均	標準偏差	α
自立的	―	0.671 ***	0.106	0.623 ***	3.990	0.669	0.896
協調的		―	0.006	0.589 ***	3.933	0.695	0.850
日和見的			―	0.468 **	3.054	0.878	0.791
自由的				―	3.722	0.577	0.371

***p<0.01 **p<0.01

（３）学生の属性による組織風土得点の比較

学生の属性による組織風土得点を比較し、対応のないｔ検定における有意差があるものを記した。

１）性別

性別における４日目の組織風土構造についてみたのが、表 4-1 である。第２因子「協調的」な組織風土において、男子学生の平均値が、女子学生の平均値より高く、男女との間において有意差（p<0.05）が認められた。男子学生の平均値の方が高いことから、男子学生の方は協力しながらドッジボールに参加していたと考えられる。

表4-1　4日目の組織風土構造と「性別」について

	男性			女性					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	13	4.077	0.669	22	3.720	0.704	1.477	33	*n.s.*
協調的	14	4.143	0.725	21	3.571	0.684	2.364	33	*
日和見的	14	3.143	1.125	22	3.023	0.469	0.379	15.909	*n.s.*
自由的	14	3.667	0.613	21	3.540	0.591	0.613	33	*n.s.*

*p<0.05

性別における８日目の組織風土構造についてみたのが、表 4-2 である。第１因子「自立的」な組織風土において、男子学生の平均値が、女子学生の平均値より高く、男女との間において有意差（p<0.05）が認められた。男子学生の平均値の方が高いことから、男子学生の方は率先してアルティメットに参加していたと考えられる。また、第２因子「協調的」な組織風土において、男子の平均値が女子の平均値より高く、男女との間において有意差（p<0.01）が認められた。男子学生の平均値の方が高いことから、男子学生の方は協力しながらアルティメットに参加していたと考えられる。

表4-2　8日目の組織風土構造と「性別」について

	男性			女性					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	14	4.262	0.646	21	3.810	0.635	2.050	33	*
協調的	14	4.357	0.620	21	3.651	0.601	3.366	33	**
日和見的	15	2.850	1.093	22	3.193	0.690	−1.173	35.000	*n.s.*
自由的	14	3.881	0.649	22	3.621	0.517	1.330	34	*n.s.*

**p<0.01 *p<0.05

性別における 12 日目の組織風土構造についてみたのが、表 4-3 である。第１因子「自立的」な組織風土において、男子学生の平均値が、女子学生の平均値より高く、男女との間において有意差（p<0.05）が認められた。男子学生の平均値の方が高いことから、男子学生の方は率先して卓球に参加していたと考えられる。また、第４因子「自由的」な組織風土において、男子の平均値が女子の平均値より高く、男女との間において有意差（p<0.05）が認められた。男子学生の平均値の方が高いことから、男子学生の方は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで卓球に参加していたと考えられる。

表4-3　12日目の組織風土構造と「性別」について

	男性			女性					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	13	4.090	0.709	19	3.623	0.512	2.167	30	*
協調的	15	4.200	0.710	20	3.750	0.648	1.952	33	*n.s.*
日和見的	15	3.183	1.193	19	2.947	0.995	0.629	32.000	*n.s.*
自由的	15	3.933	0.669	20	3.383	0.462	2.878	33	*

**p<0.01 *p<0.05

2）運動することが好き・嫌い別

運動することが好き・嫌い別における 7 日目の組織風土構造についてみたのが、表 5-1 である。第１因子「自立的」な組織風土において、運動することが好きと答えた学生の平均値が、運動することが嫌いと答えた学生の平均値をより高く、運動することが好き・嫌いとの間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することが好きと答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが好きと答えた学生は率先してドッジボールに参加していたと考えられる。また、第２因子「協調的」な組織風土において、運動することが好きと答えた学生の平均値が、運動することが嫌いと答えた学生の平均値をより高く、運動することが好き・嫌いとの間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することが好きと答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが好きと答えた学生は協力しながらドッジボールに参加していたと考えられる。

表5-1 7日目の組織風土構造と「運動することが好き・嫌い別」について

	好き			嫌い					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD		自由度	
自立的	12	4.097	0.613	2	3.000	0.000	−1.859	12	*
協調的	12	4.250	0.818	2	3.000	0.000	−1.889	11	***
日和見的	12	2.896	1.250	2	3.000	0.000	0.000	12	*n.s.*
自由的	12	3.667	0.778	2	3.000	0.000	−1.310	12	*n.s.*

***p<0.001 *p<0.05

3）体育授業が好き・嫌い別

体育授業が好き・嫌い別における 3 日目の組織風土構造についてみたのが、表 6-1 である。第１因子「自立的」な組織風土において、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値が、体育授業が好きと答えた学生の平均値より高く、体育授業が好き・嫌いとの間において有意差（p<0.01）が認められた。体育授業が嫌いと答えた学生の平均値の方が高いことから、体育授業が嫌いと答えた学生は率先してレクレーション活動に参加していたと考えられる。

表6-1 3日目の組織風土構造と「体育授業が好き・嫌い別」について

	好き			嫌い					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD		自由度	
自立的	27	3.710	0.643	4	4.167	0.192	−1.362	16.066	**
協調的	30	3.989	0.755	5	3.467	0.803	−1.284	33	*n.s.*
日和見的	30	2.842	0.781	5	3.350	1.140	−0.949	33	*n.s.*
自由的	30	3.711	0.592	5	3.733	0.983	−0.096	33	*n.s.*

**p<0.01

体育授業が好き・嫌い別における 7 日目の組織風土構造についてみたのが、表 6-2 である。第１因子「自立的」な組織風土において、体育授業が好きと答えた学生の平均値が、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値より低く、体育授業が好き・嫌いとの間において有意差（p<0.01）が認められた。体育授業が好きと答えた学生の平均値の方が高いことから、体育授業が好きと答えた学生は率先してドッジボールに参加していたと考えられる。また、第２因子「協調的」な組織風土において、体育授業が好きと答えた学生の平均値が、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値より低く、体育授業が好き・嫌いとの間において有意差（p<0.001）が認められた。体育授業が好きと答えた学生の平均値の方が高いことから、体育授業が好きな学生は協力しながらドッジボールに参加していたと考えられる。

表6-2 7日目の組織風土構造と「体育授業が好き・嫌い別」について

	好き			嫌い					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD		自由度	
自立的	12	4.097	0.613	2	3.000	0.000	−1.859	12	*
協調的	12	4.250	0.818	2	3.000	0.000	−1.889	11	***
日和見的	12	2.896	1.250	2	3.000	0.000	0.000	12	*n.s.*
自由的	12	3.667	0.778	2	3.000	0.000	−1.310	12	*n.s.*

***p<0.001 *p<0.05

4）種目（生涯スポーツ）が好き・嫌い別

種目（生涯スポーツ）が好き・嫌い別における 6 日目の組織風土構造についてみたのが、表

7-1 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、種目が嫌いと答えた学生の平均値が、種目が好きと答えた学生の平均値より高く、種目が好き・嫌いとの間において有意差（p<0.05）が認められた。種目が嫌いと答えた学生の平均値の方が高いことから、種目が嫌いと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたと考えられる。

表7-1　6日目の組織風土構造と「種目（生涯スポーツ）が好き・嫌い別」について

	好き			嫌い					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD		自由度	
自立的	33	3.995	0.577	3	4.167	1.041	−0.690	34	*n.s.*
協調的	34	3.980	0.550	3	4.111	0.839	−0.199	35	*n.s.*
日和見的	34	3.250	0.879	3	3.833	1.010	−1.035	35	*n.s.*
自由的	33	3.616	0.521	3	4.333	0.882	−1.487	34	*

*p<0.05

5）私生活で運動することがある・ない別

私生活で運動することがある・ない別における 6 日目の組織風土構造についてみたのが、表 8-1 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、私生活で運動しないと答えた学生の平均値が、私生活で運動すると答えた学生の平均値より高く、私生活で運動することがある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。私生活で運動することがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、私生活で運動しないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたと思われる。

表8-1　6日目の組織風土構造と「私生活で運動することがある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	18	3.861	0.679	20	4.042	0.592	−0.875	36	*n.s.*
協調的	19	3.947	0.650	20	3.933	0.547	0.073	37	*n.s.*
日和見的	19	3.092	0.887	20	3.463	0.832	−1.346	37	*n.s.*
自由的	18	3.444	0.583	20	3.817	0.535	−2.052	36	*

*p<0.05

私生活で運動することがある・ない別における 8 日目の組織風土構造についてみたのが、表 8-2 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、私生活で運動しないと答えた学生の平均値が、私生活で運動すると答えた学生の平均値より高く、私生活で運動することがある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。私生活で運動することがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、私生活で運動することがないと答えた学生は積極的にアルティメット参加せずに周囲の様子を窺っていたと考えられる。

表8-2　8日目の組織風土構造と「私生活で運動することがある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	19	3.991	0.649	16	3.990	0.714	0.007	33	*n.s.*
協調的	18	4.111	0.647	17	3.745	0.712	1.593	33	*n.s.*
日和見的	20	2.788	0.882	17	3.368	0.786	−2.095	35	*
自由的	19	3.702	0.554	17	3.745	0.618	−0.222	34	*n.s.*

*p<0.05

私生活で運動することがある・ない別における 9 日目の組織風土構造についてみたのが、表 8-3 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、私生活で運動しないと答えた学生の平均値が私生活で運動すると答えた学生の平均値より高く、私生活で運動することがある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。私生活で運動することがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、私生活で運動することがないと答えた学生は積極的にタッチフットに参加せず

表8－3　9日目の組織風土構造と「私生活で運動することがある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	19	3.930	0.599	17	3.951	0.702	−0.098	34	*n.s.*
協調的	19	3.930	0.774	17	3.941	0.580	−0.049	34	*n.s.*
日和見的	19	2.789	0.826	18	3.431	0.747	−2.472	35	*
自由的	19	3.596	0.594	17	3.882	0.600	−1.434	34	*n.s.*

*p<0.05

に周囲の様子を窺っていたと考えられる。

私生活で運動することがある・ない別における 13 日目の組織風土構造についてみたのが、表 8-4 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、私生活で運動しないと答えた学生の平均値が、私生活で運動すると答えた学生の平均値より高く、私生活で運動することがある・ないとの間において有意差（p<0.01）が認められた。私生活で運動することがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、私生活で運動しないと答えた学生は積極的にリレーに参加せずに周囲の様子を窺っていたと考えられる。

表8-4 13日目の組織風土構造と「私生活で運動することがある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	17	4.127	0.708	14	4.024	0.716	0.404	29	*n.s.*
協調的	17	3.961	0.644	15	3.911	0.623	0.221	30	*n.s.*
日和見的	17	2.574	1.085	15	3.617	0.647	−3.245	30	**
自由的	17	3.529	0.541	15	3.844	0.486	−1.724	30	*n.s.*

**p<0.01

6）運動することが得意・不得意別

運動することが得意・不得意別における 3 日目の組織風土構造についてみたのが、表 9-1 である。第 1 因子「自立的」な組織風土において、運動することが不得意と答えた学生の平均値が運動することが得意と答えた学生の平均値より高く、運動することが得意・不得意との間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが不得意と答えた学生は率先してオリエンテーションに参加していたと考えられる。

表9-1 3日目の組織風土構造と「運動することが得意・不得意別」について

	得意			不得意					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	12	3.486	0.665	18	3.963	0.547	−2.147	28	*
協調的	14	3.905	0.900	20	3.950	0.703	−0.164	32	*n.s.*
日和見的	14	2.732	0.880	20	3.075	0.812	−1.172	32	*n.s.*
自由的	14	3.643	0.591	20	3.800	0.679	−0.699	32	*n.s.*

*p<0.05

運動することが得意・不得意別における 10 日目の組織風土構造についてみたのが、表 9-2 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、運動することが不得意と答えた学生の平均値が、運動することが得意と答えた学生の平均値より高く、運動することが得意・不得意との間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが不得意と答えた学生は、積極的にサッカーに参加しないで、周囲の様子を窺いながら参加していたと考えられる。また、第 4 因子「自由的」な組織風土において、運動することが不得意と答えた学生の平均値が運動することが得意と答えた学生の平均値より高く、運動することが得意・不得意との間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが不得意と答えた学生の方が周囲の状況に左右されず、自分のペースでのびのびとサッカーに参加していたと考えられる。

表9-2 10日目の組織風土構造と「運動することが得意・不得意別」について

	得意			不得意					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	12	3.931	0.796	17	3.931	0.504	−0.003	17.154	*n.s.*
協調的	12	3.972	0.797	16	4.000	0.710	−0.097	26	*n.s.*
日和見的	12	2.688	0.893	17	3.412	0.805	−2.282	27	*
自由的	12	3.361	0.731	17	3.882	0.539	−2.213	27	*

*p<0.05

運動することが得意・不得意別における 11 日目の組織風土構造についてみたのが、表 9-3 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、運動することが不得意と答えた学生の平

均値が、運動することが得意と答えた学生の平均値より高く、運動することが得意・不得意との間において有意差（p<0.01）が認められた。運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが不得意と答えた学生は積極的にドッジビーに参加していなかったと考えられる。また、第 4 因子「自由的」な組織風土において、運動することが不得意と答えた学生の平均値が運動することが得意と答えた学生の平均値より高く、運動することが得意・不得意との間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することが不得意と答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでドッジビーに参加していたと考えられる。

表9-3 11日目の組織風土構造と「運動することが得意・不得意別」について

	得意			不得意					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	11	3.803	0.792	15	3.856	0.563	−0.198	24	*n.s.*
協調的	13	3.692	0.775	17	4.020	0.651	−1.257	28	*n.s.*
日和見的	12	2.542	0.797	16	3.500	0.791	−3.164	26	**
自由的	13	3.256	0.596	17	3.843	0.625	−2.600	28	*

**p<0.01 *p<0.05

7）得意な種目がある・ない別

得意な種目がある・ない別における 2 日目の組織風土構造についてみたのが、表 10-1 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値より高く、得意な種目がある・ないとの間において有意差（p<0.01）が認められた。得意な種目がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでレクレーションに参加していたと考えられる。

表10-1 2日目の組織風土構造と「得意な種目がある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	21	3.905	0.534	12	4.056	0.613	−0.740	31	*n.s.*
協調的	21	3.921	0.666	11	3.939	0.680	−0.075	30	*n.s.*
日和見的	21	2.619	0.947	13	3.250	0.771	−2.020	32	*n.s.*
自由的	20	3.267	0.588	11	4.030	0.605	−3.424	29	**

**p<0.01

得意な種目がある・ない別における 3 日目の組織風土構造についてみたのが、表 10-2 である。第 1 因子「自立的」な組織風土において、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値より高く、得意な種目がある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。得意な種目がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、率先してレクレーションに参加していたと考えられる。

表10-2 3日目の組織風土構造と「得意な種目がある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	21	3.603	0.578	10	4.117	0.588	−2.298	29	*
協調的	24	3.889	0.809	11	3.970	0.722	−0.283	33	*n.s.*
日和見的	24	2.729	0.759	11	3.318	0.902	−2.010	33	*n.s.*
自由的	24	3.639	0.621	11	3.879	0.688	−1.026	33	*n.s.*

*p<0.05

得意な種目がある・ない別における 5 日目の組織風土構造についてみたのが、表 10-3 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値より高く、得意な種目がある・ないとの間において有意差（p<0.01）が認められた。得意な種目がないと答えた学生の平均値の方

表10-3 5日目の組織風土構造と「得意な種目がある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	24	3.951	0.623	11	4.091	0.375	−0.820	30.224	*n.s.*
協調的	24	3.903	0.705	12	4.222	0.538	−1.378	34	*n.s.*
日和見的	23	3.054	1.014	11	3.500	1.049	−1.186	32	*n.s.*
自由的	22	3.591	0.471	12	3.972	0.540	−2.143	32	*

*p<0.05

が高いことから、得意な種目がないと答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたと考えられる。

得意な種目がある・ない別における 6 日目の組織風土構造についてみたのが、表 10-4 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値より高く、得意な種目がある・ないとの間において有意差（p<0.01）が認められた。得意な種目がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、得意な種目がないと答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたと考えられる。

表10-4 6日目の組織風土構造と「得意な種目がある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	25	3.880	0.588	13	4.103	0.712	−1.029	36	*n.s.*
協調的	25	3.907	0.627	14	4.000	0.539	−0.468	37	*n.s.*
日和見的	25	3.240	0.928	14	3.357	0.777	−0.400	37	*n.s.*
自由的	25	3.507	0.537	13	3.897	0.599	−2.047	36	*

*p<0.05

得意な種目がある・ない別における 10 日目の組織風土構造についてみたのが、表 10-5 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値より高く、得意な種目がある・ないとの間において有意差（p<0.001）が認められた。得意な種目がないと答えた学生の平均値が高いことから、得意な種目がないと答えた学生は積極的にサッカーに参加していなかったと考えられる。また、第 4 因子「自由的」な組織風土において、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値より高く、得意な種目がある・ないとの間において有意差（p<0.001）が認められた。得意な種目がないと答えた学生の平均値が高いことから、得意な種目がないと答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでサッカーをしていたと考えられる。

表10-5 10日目の組織風土構造と「得意な種目がある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD		自由度	
自立的	21	3.897	0.731	10	3.933	0.316	−0.424	28.892	*n.s.*
協調的	21	3.937	0.786	9	3.926	0.662	−0.069	28	*n.s.*
日和見的	21	2.869	0.890	10	3.725	0.558	−2.698	29	***
自由的	21	3.444	0.635	10	4.067	0.492	−2.617	29	**

***p<0.001 **p<0.01

8）運動することに自信がある・ない別

運度することに自信がある・ない別における 8 日目の組織風土についてみたのが、表 11-1 である。第 3 因子「日和見的」な組織風土において、運動することに自信がないと答えた学生の平均値が、運動することに自信があると答えた学生の平均値が高く、運動することに自信がある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することに自信がない学生は経験した事がないアルティメットに対して積極的に参加しなかったと考えられる。

表11-1 8日目の組織風土構造と「運動することに自信ある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	12	3.931	0.764	22	4.015	0.644	−0.343	32	*n.s.*
協調的	11	3.818	0.821	23	4.000	0.651	−0.700	32	*n.s.*
日和見的	12	2.625	0.938	24	3.250	0.801	−2.085	34	*
自由的	12	3.556	0.687	23	3.812	0.521	−1.237	33	*n.s.*

*p<0.05

運動することに自信がある・ない別における 10 日目の組織風土についてみたのが、表 11-2 である。第 2 因子「協調的」な組織風土において、運動することに自信がないと答えた学生の平均値が、運動することに自信があると答えた学生の平均値が高く、運動することに自信があ

る・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。運動することに自信がないと答えた学生の平均値が高いことから、運動することに自信がないと学生は、慣れしたしんだサッカーになると運動することに自信がなくとも仲間同士で協力をし合うと考えられる。また、第 4 因子「自由的」な組織風土において、運動することに自信がないと答えた学生の平均値が、運動することに自信があると答えた学生の平均値が高く、運動することに自信がある・ないとの間において有意差（p<0.01）が認められた。運動することに自信がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、運動することに自信がない学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでサッカーに参加していたと考えられる。

表11-2　10日目の組織風土構造と「運動することに自信ある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	11	3.727	0.724	19	4.009	0.568	−1.183	28	*n.s.*
協調的	11	3.606	0.814	18	4.167	0.629	−2.083	27	*
日和見的	11	2.727	0.480	19	3.342	0.997	−1.910	28	*n.s.*
自由的	11	3.242	0.685	19	3.877	0.547	−2.794	28	**

**p<0.01 *p<0.05

9）コミュニケーションをとることが得意・不得意別

コミュニケーションをおこなうことが得意・不得意について有意差が認められなかった。

１０）体力に自信がある・ない別

体力に自信がある・ない別における 5 日目の組織風土についてみたのが、表 12-1 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、体力に自信がないと答えた学生の平均値が、体力に自信があると答えた学生の平均値より高く、体力に自信がある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。体力に自信がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、体力に自信がない学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたと考えられる。

表12-1　5日目の組織風土構造と「体力に自信ある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	12	3.958	0.587	22	4.023	0.562	−0.315	32	*n.s.*
協調的	12	3.944	0.708	23	4.058	0.664	−0.469	33	*n.s.*
日和見的	11	2.864	0.876	22	3.375	1.101	−1.339	31	*n.s.*
自由的	12	3.472	0.388	21	3.857	0.553	−2.123	31	*

*p<0.05

体力に自信がある・ない別における 8 日目の組織風土についてみたのが、表 12-2 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、体力に自信がないと答えた学生の平均値が、体力に自信があると答えた学生の平均値より高く、運動することに自信がある・ないとの間において有意差（p<0.05）が認められた。体力に自信がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、体力に自信がない学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでアルティメットに参加していたと考えられる。

表12-2　8日目の組織風土構造と「体力に自信ある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	12	3.917	0.709	22	4.023	0.675	−0.430	32	*n.s.*
協調的	11	3.727	0.743	23	4.043	0.676	−1.236	32	*n.s.*
日和見的	12	2.771	0.882	24	3.177	0.877	−1.308	34	*n.s.*
自由的	12	3.389	0.446	23	3.899	0.581	−2.651	33	*

*p<0.05

体力に自信がある・ない別における 10 日目の組織風土についてみたのが、表 12-3 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、体力に自信がないと答えた学

表12-3　10日目の組織風土構造と「体力に自信ある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	11	3.636	0.572	19	4.061	0.627	−1.847	28	*n.s.*
協調的	11	3.636	0.706	18	4.148	0.716	−1.877	27	*n.s.*
日和見的	11	2.773	0.425	19	3.316	1.027	−2.025	26.114	*n.s.*
自由的	11	3.121	0.402	19	3.947	0.601	−4.049	28	***

***p<0.001

生の平均値が、体力に自信があると答えた学生の平均値より高く、運動することに自信がある・ないとの間において有意差（p<0.001）が認められた。体力に自信がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、体力に自信がない学生周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでサッカーに参加していたと考えられる。

１１）あなたは過去の体育授業で嫌なことがある・ない別

過去の体育授業で嫌なことがある・ない別における 7 日目の組織風土についてみたのが、表 13-1 である。第 4 因子「自由的」な組織風土において、過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の平均値が、過去の体育授業で嫌なことがあると答えた学生の平均値より高く、過去の体育授業で嫌なことがある・ない間において有意差（p<0.05）が認められた。過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、過去の体育授業で嫌なことがない学生は、周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースとドッジボールに参加していたと考えられる。

表13-1 7日目の組織風土構造と「過去の体育授業で嫌なことがある・ない別」について

	ある			ない					
	N	平均値	SD	N	平均値	SD	t 値	自由度	
自立的	6	3.694	0.799	8	4.125	0.582	−1.171	12	*n.s.*
協調的	6	3.722	0.998	8	4.333	0.735	−1.324	12	*n.s.*
日和見的	6	2.500	0.894	8	3.219	1.278	−1.174	12	*n.s.*
自由的	6	3.111	0.502	8	3.917	0.751	−2.265	12	*

*p<0.05

（4）組織風土性下位尺度における因子別

組織風土性下位尺度における学生による属性の比較を検討した。

1）性別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における性別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における性別について見たのが図 1-1 である。13 日間の推移を通して、男子学生の平均値が、女子学生の平均値を上回っていることから、男子学生の方が自分の力で判断したり身を立てるなどして、授業に参加していたと伺い知ることができる。8 日目において男女間に有意差（p<0.05）が認められ、男子学生の方が積極的にアルティメットに参加していたと伺い知ることができる。12 日目において男女間に有意差（p<0.05）が認められ、男子学生の方が積極的に卓球に参加していたと伺い知ることができる。

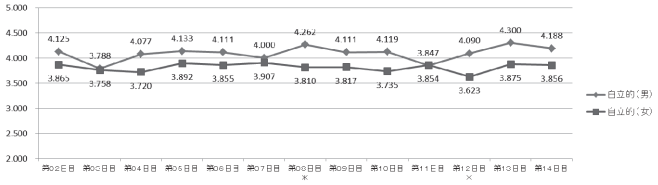

図1-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における性別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における性別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における性別について見たのが図 1-2 である。13 日間の推移を通して、男子学生の平均値が、女子学生の平均値を上回っていることから、男子学生の方が協力し合いながら授業に参加していたことを伺

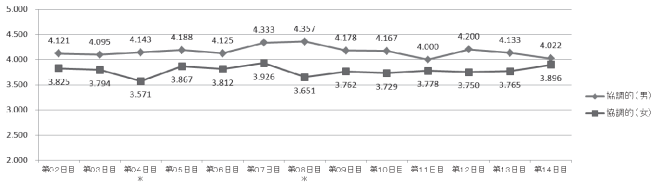

図1-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における性別

い知ることができる。4 日目において男女間に有意差（p<0.05）が認められ、男子学生の方が仲間と協力をしながらドッジボールに参加していたことを伺い知ることができる。8 日目において男女間に有意差（p<0.05）が認められ、男子学生の方が仲間と協力をしながらアルティメットに参加していたことを伺い知ることができる。

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における性別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における性別について見たのが図 1-3 である。13 日間の推移を通して、女子学生の平均値が、男子学生の平均値を上回っていること多いことから、女子学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。男女間に有意差は認められなかった。

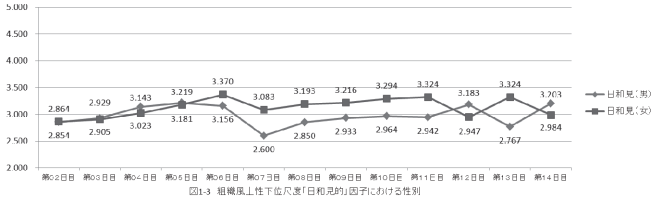

図1-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における性別

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における性別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における性別について見たのが図 1-4 である。13 日間の推移を通して、若干ではあるが男子学生の平均値が、女子学生の平均値を上回っていることが多いことから、男子学生は誰に束縛されず、周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで授業に参加していることを伺い知ることができる。12 日目において男女間に有意差（p<0.05）が認められた。男子学生の平均値の方が高いことから、男子学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで卓球に参加していたと伺い知ることができる。

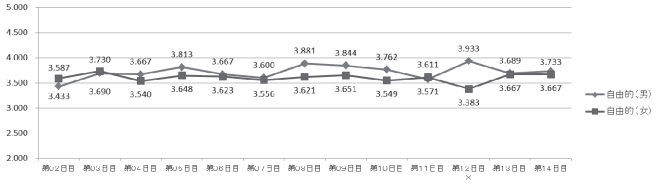

図1-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における性別

2）運動することが好き・嫌い別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することが好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することが好き・嫌い別について見たのが図 2-1 である。13 日間の推移を通して、運動することが好きと答えた学生の平均値は一定で高いが、運動することが嫌いと答えた学生の平均値は高低差がある。このことから、運動することが好きと答えた学生は、常に安定して積極的な態度で授業に参加することができるが、嫌いと答えた学生は、授業内容や授業状態により授業に対する態度が変化すると思われる。7 日目において運動することが好きと嫌いとの間に有意差（p<0.05）が認められ、運動することが好きと答えた学生の方が積極的にドッジボールに参加していたと伺い知ることができる。

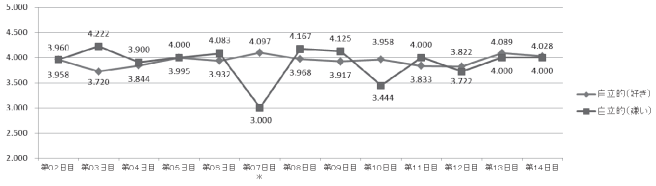

図2-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することが好き・嫌い別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することが好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することが好き・嫌い別について見たのが図 2-2 である。13 日間の推移を通して、運動することが好きと答えた学生の平均値が、運動することが嫌いと答えた学生の平均値を上回っていることが多いことから、運動することが好きと答えた学生の方が仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。運動することが嫌いと答えた学生は平均値の高低差ができていることから、授業環境や授業内容の変化により仲間と協力することができたり非協力であったりすると思われる。7 日目において運動することが好きと嫌いとの間に有意差（p<0.001）が認められ、運動することが好きと答えた学生の方が仲間と協力をしながらドッジボールに参加していたことを伺い知ることができる。

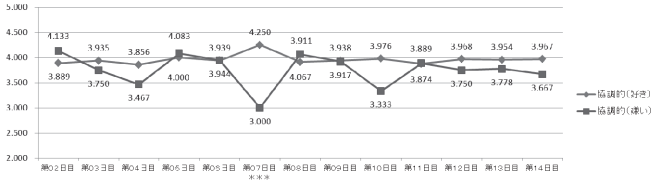

図2-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することが好き・嫌い別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することが好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することが好き・嫌い別について見たのが図 2-3 である。13 日間の推移を通して、運動することが嫌いと答えた学生の平均値が、運動することが好きと答えた学生の平均値を上回っていることから、運動することが嫌いと答えた学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。運動することが好きと運動することが嫌いと間に有意差は認められなかった。

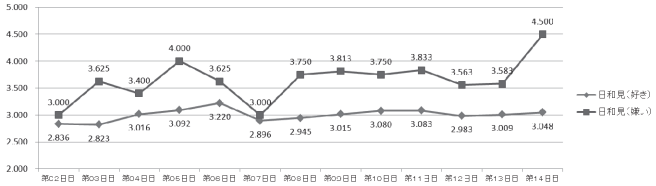

図2-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することが好き・嫌い別

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することが好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することが好き・嫌い別について見たのが図 2-4 である。13 日間の推移を通して、運動することが好きと答えた学生の平均値は安定して比較的高い数値であり、運動することが嫌いと答えた学生の平均値は高低差のある起伏の激しい折れ線グラフになっていた。このことから、運動することが好きと答えた学生はのびのびと自分のペースで授業に取り組むことができ、運動することが嫌いと答えた学生は授業状況や授業内容によりのびのびと自分のペースで授業に取り組める時と授業に取り組めない時とムラがあると考えられる。運動することが好きと運動することが嫌いと間に有意差は認められなかった。

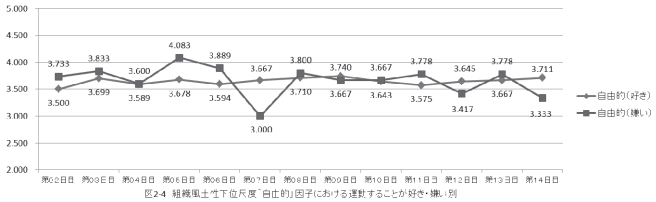

図2-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することが好き・嫌い別

3）体育授業が好き・嫌い別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における体育授業が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における体育授業が好き・嫌い別について見たのが図 3-1 である。13 日間の推移を通して、体育授業が好きと答えた学生の平均値は平均して高い数値であり、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値は高低差のある起伏の激しいグラフであった。このことから、体育授業が好きと答えた学生は、常に安定して積極的な態度で授業に参加することができるが、嫌いと答えた学生は、授業内容や授業状態により授業に対する態度が変化すると思われる。3 日目において体育授業が好きと体育授業が嫌いとの間に有意差（p<0.01）が認められ、積極的にフルーツバスケットに参加していたと伺い知ることができる。7 日目において体育授業が好きと体育授業が嫌いとの間に有意差（p<0.05）が認められ、体育授業が好きと答えた学生の方が積極的にドッジボールに参加していたと伺い知ることができる。

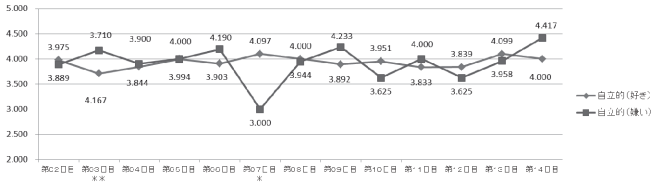

図3-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における体育授業が好き・嫌い別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における体育授業が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における体育授業が好き・嫌い別について見たのが図 3-2 である。13 日間の推移を通して、体育授業が好きと答えた学生の平均値が、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値を上回っていることから、体育授業が好きと答えた学生の方が仲間と協力しながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。7 日目において体育授業が好きと体育授業が嫌いとの間に有意差（p<0.001）が認められ、体育授業が好きと答えた学生の方が仲間と協力し合いながらドッジボールに参加していたことを伺い知ることができる。

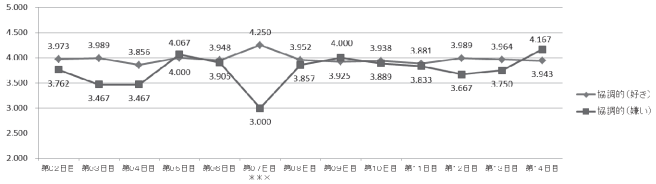

図3-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における体育授業が好き・嫌い別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における体育授業が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における体育授業が好き・嫌い別について見たのが図 3-3 である。13 日間の推移を通して、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値が、体育授業が好きと答えた学生の平均値を上回っていることから、体育授業が嫌いと答えた学生の方が消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。体育授業が好きと体育授業が嫌いとの間に有意差は認められなかった。

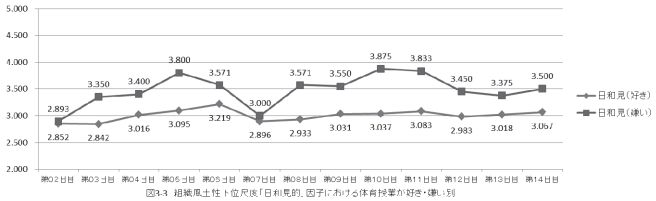

図3-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における体育授業が好き・嫌い別

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における体育授業が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における体育授業が好き・嫌い別について見たのが図 3-4 である。13 日間の推移を通して、体育授業が好きと答えた学生の平均値は起伏があまりなく平均的であったが、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値は高低差のある起伏が激しいグラフで

あった。このことから、体育授業が好きと答えた学生は比較的のびのびと自分のペースで授業に取り組むことができ、体育授業が嫌いと答えた学生は授業状況や授業内容によりのびのびと自分のペースで授業に取り組める時と授業に取り組めない時とムラがあると考えられる。体育授業が好きと体育授業が嫌いとの間に有意差は認められなかった。

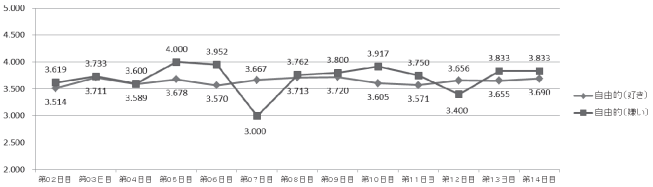

図3-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における体育授業が好き・嫌い別

4）種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別比較による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別について見たのが図 4-1 である。13 日間の推移を通して、種目が好きと答えた学生の平均値は安定的に高い値であったが、種目が嫌いと答えた学生の平均値は高低差ある起伏が激しいグラフとなっている。このことから、種目が好きと答えた学生は、常に安定して積極的な態度で授業に参加することができるが、嫌いと答えた学生は、授業内容や授業状態により授業に対する態度が変化すると思われる。種目が好きと種目が嫌いとの間に有意差は認められなかった。

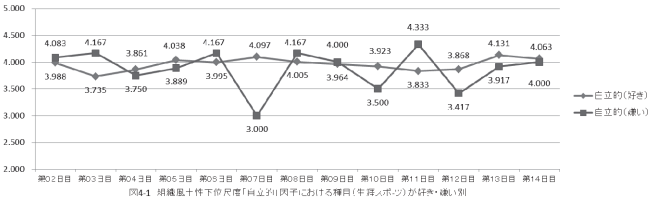

図4-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別について見たのが図 4-2 である。13 日間の推移を通して、種目が好きと答えた学生の平均値は安定して高い数値であったが、種目が嫌いと答えた学生の平均値は高低差のある起伏の激しいグラフとなっている。このことから、種目が好きと答えた学生は、常に仲間と協力し合いをしながら授業に参加することができるが、嫌いと答えた学生は、授業内容や授業状態により仲間と協力的な時と非協力的な時とムラがあると考えられる。種目が好きと種目が嫌いとの間に有意差は認められなかった。

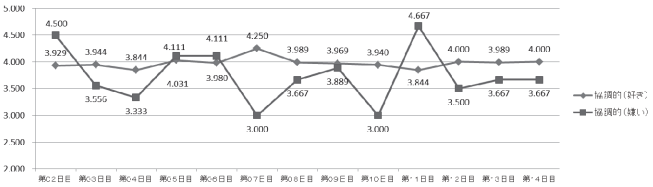

図4-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別について見たのが図 4-3 である。13 日間の推移を通して、2 日目以外は種目が嫌いと答えた学生の平均値が、種目が好きと答

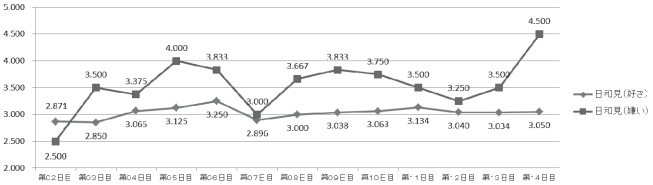

図4-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別

えた学生の平均値より上回っていることから、種目が嫌いと答えた学生の方が消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。種目が好きと種目が嫌いとの間に有意差は認められなかった。

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別について見たのが図 4-4 である。13 日間の推移を通して、種目が好きと答えた学生の平均値は安定して高い数値であったが、種目が嫌いと答えた学生の平均値は起伏の激しい高低差があるグラフとなっている。このことから、種目が好きと答えた学生はのびのびと自分のペースで授業に取り組むことができ、種目が嫌いと答えた学生は授業状況や授業内容によりのびのびと自分のペースで授業に取り組める時と授業に取り組めない時とムラがあると考えられる。6 日目において種目が好きと種目が嫌いとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、種目が嫌いと答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたことを伺い知ることができる。

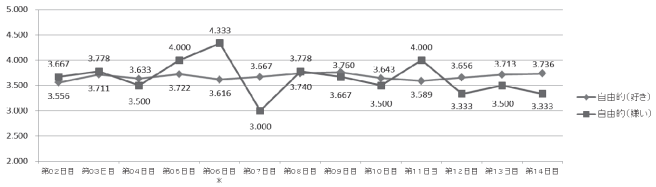

図4-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における種目（生涯スポ-ツ）が好き・嫌い別

5）私生活で運動することがある・ない別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における私生活で運動することがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における私生活で運動することがある・ない別について見たのが図 5-1 である。13 日間の推移を通して、8 日目までは私生活で運動することがないと答えた学生の平均値が、私生活で運動することがあると答えた学生の平均値を上回り、9 日目以降は反対になっている。私生活で運動することがあると答えた学生は授業回数が増すたびに積極的に授業に参加していたと伺い知ることができる。私生活で運動することがあると私生活で運動することがないとの間に有意差は認められなかった。

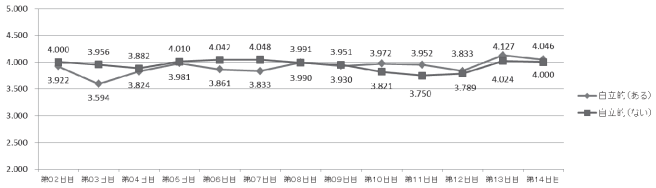

図5-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における私生活で運動する"ことがある・ない別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における私生活で運動することがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における私生活で運動することがある・ない別について見たのが図 5-2 である。13 日間の推移を通して、私生活で運動することがあると答えた学生の平均値と私生活で運動することがないと答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、私生活で運動することある・ないに関係なく、仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。

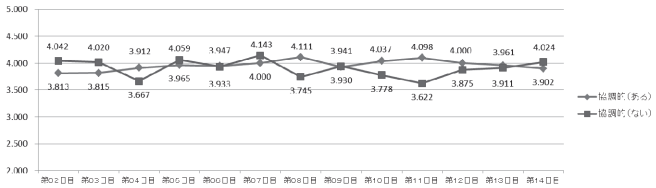

図5-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における私生活で運動することがある・ない別

私生活で運度することがあると私生活で運度することがないとの間に有意差は認められなかった。

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における私生活で運動することがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における私生活で運動することがある・ない別について見たのが図 5-3 である。13 日間の推移を通して、私生活で運動することがないと答えた学生の平均値が、私生活で運動することがあると答えた学生の平均値を上回っていることから、私生活で運動することがないと答えた学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。8 日目において私生活で運動することがあると私生活で運動することがないとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、私生活で運動することがないと答えた学生の方が消極的な態度でアルティメットに参加していたことを伺い知ることができる。9 日目において私生活で運動することがあると私生活で運動することがないとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、私生活で運動することがないと答えた学生の方が消極的な態度でタッチフットに参加していたことを伺い知ることができる。13 日目において私生活で運動することがあると私生活で運動することがないとの間に有意差（$p<0.01$）が認められ、私生活で運動することがないと答えた学生の方が、消極的な態度でリレーに参加していたことを伺い知ることができる。

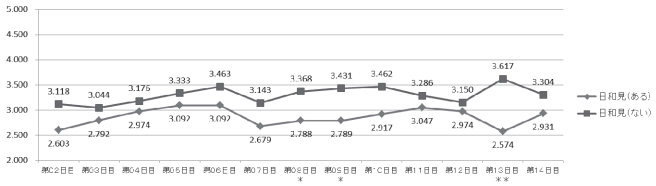

図5-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における私生活で運動することがある・ない別

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における私生活で運動することがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における私生活で運動することがある・ない別について見たのが図 5-4 である。13 日間の推移を通して、私生活で運動をしないと答え学生の平均値が、私生活で運動すると答えた学生の平均値を上回る事が多いことから、私生活で運動しないと答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで授業に参加していたことを伺い知ることができる。6 日目において私生活で運動することがあると私生活で運動することがないとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、私生活で運動しないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたことを伺い知ることができる。

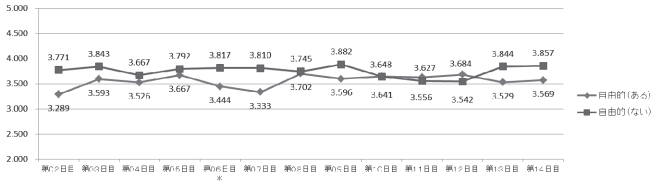

図5-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における私生活で運動することがある・ない別

6）運動することが得意・不得意別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することが得意・不得意別について見たのが図 6-1 である。13 日間の推移を通して、3 日目以外は運動することが得意と答えた学生の平均値と運動することが不得意と答えた学生の平均値とほぼ同値なことから、運動することが得

意・不得意と答えた学生共に積極的な態度で授業を参加していたと伺い知ることができる。3日目において運動することが得意と運動することが不得意との間に有意差（p<0.05）が認められ、運動することが不得意と答えた学生の方が積極的にフルーツバスケットに参加していたと伺い知ることができる。

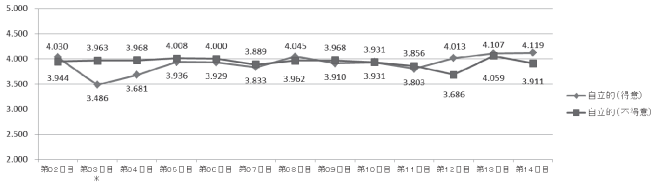

図6-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することが得意・不得意別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することが得意・不得意別について見たのが図 6-2 である。13 日間の推移を通して、運動することが得意と答えた学生の平均値と運動することが不得意と答えた平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、運動することが得意・不得意に関係なく、仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。運動することが得意と運動することが不得意との間に有意差が認められなかった。

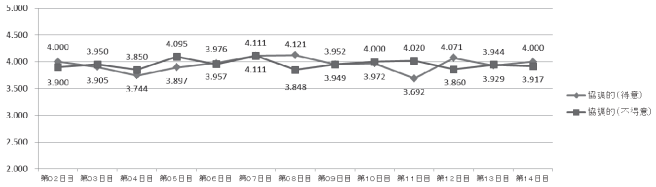

図6-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することが得意・不得意別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することが得意・不得意別について見たのが図 6-3 である。13 日間の推移を通して、運動することが不得意と答えた学生の平均値が運動することが得意と答えた学生の平均値を上回っていることから、不得意と答えた学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。10 日目において運動することが得意と運動することが不得意との間に有意差（p<0.05）が認められ、運動することが不得意と答えた学生の方が消極的な態度でサッカーに参加していたことを伺い知ることができる。11 日目において運動することが得意と運動することが不得意との間に有意差（p<0.01）が認められ、運動することが不得意と答えた学生の方が消極的な態度でドッジビーに参加していたことを伺い知ることができる。

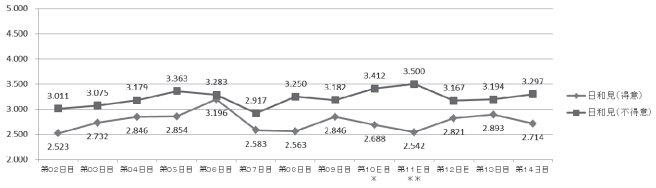

図6-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することが得意・不得意別

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することが得意・不得意別について見たのが図 6-4 である。13 日間の推移を通して、運動することが不得意と答えた学生の平均値が、運動することが得意と答えた学生の平均値を上回っていることから、運動することが不得意と答えた学生の方がのびのびと授業に参加していたことを伺い知ることができる。10 日目において運動することが得意と運動することが不得意との間に有意差（p<0.05）が認められ、運動が不得意と答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでサッカー

に参加していたことを伺い知ることができる。11 日目において運動することが得意と運動することが不得意との間に有意差（p<0.01）が認められ、運動が不得意と答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでドッジビーに参加していたことを伺い知ることができる。

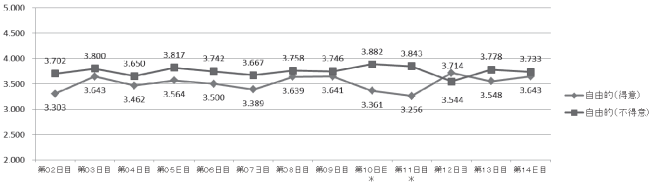

図6-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することが得意・不得意別

7）得意な種目がある・ない別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における得意な種目がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における得意な種目がある・ない別について見たのが図 7-1 である。13 日間の推移を通して、3 日目以外は得意な種目がないと答えた学生の平均値と得意な種目があると答えた学生の平均値がほぼ同値であることから、得意な種目がある・ないに関係なく積極的に授業参加していたと伺い知ることができる。3 日目において得意な種目あると得意な種目がないとの間に有意差（p<0.05）が認められ、得意な種目がないと答えた学生の方が、積極的にフルーツバスケットに参加していたと伺い知ることができる。

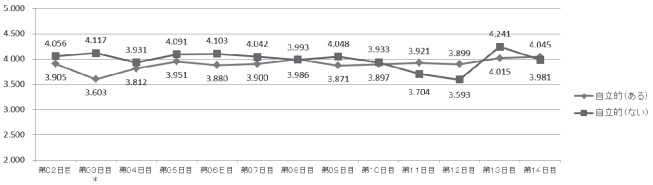

図7-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における得意な種目がある・ない別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における得意な種目がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における得意な種目がある・ない別について見たのが図 7-2 である。13 日間の推移を通して、得意な種目があると答えた学生の平均値と得意な種目がないと答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、得意な種目がある・ないに関係なく、仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。得意な種目があると得意な種目がないとの間に有意差が認められなかった。

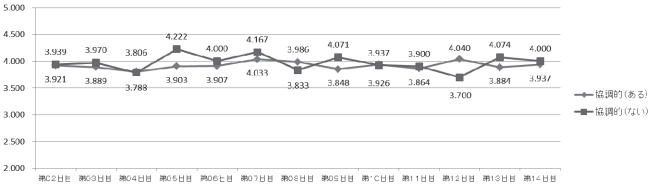

図7-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における得意な種目がある・ない別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における得意な種目がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における得意な種目がある・ない別について見たのが図 7-3 である。13 日間の推移を通して、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目あると答えた学生の平均値を上回っていることから、得意な種目がないと答えた学生の方が、積消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知る

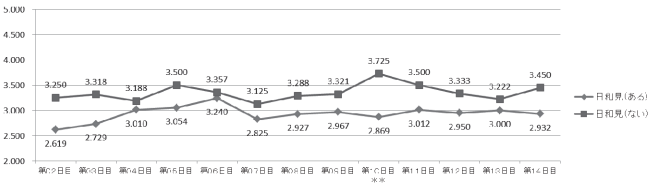

図7-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における得意な種目がある・ない別

ことができる。10 日目において得意な種目があると得意な種目がないとの間に有意差(p<0.01)が認められ、得意な種目がないと答えた学生の方が消極的な態度でサッカーに参加していたことを伺い知ることができる。

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における得意な種目がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における得意な種目がある・ない別について見たのが図7-4 である。13 日間の推移を通して、得意な種目がないと答えた学生の平均値が、得意な種目があると答えた学生の平均値を上回っていることから、得意な種目がないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで授業に参加していたと思われる。2 日目において得意な種目があると得意な種目がないとの間に有意差（p<0.01）が認められ、得意な種目がないと答え学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでレクレーションに参加していたことを伺い知ることができる。4 日目において得意な種目があると得意な種目がないとの間に有意差（p<0.05）が認められ、得意な種目がないと答え学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでドッジボールに参加していたことを伺い知ることができる。5 日目において得意な種目があると得意な種目がないとの間に有意差（p<0.05）が認められ、得意な種目がないと答え学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたことを伺い知ることができる。10 日目において得意な種目があると得意な種目がないとの間に有意差（p<0.05）が認められ、得意な種目がないと答え学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでサッカーに参加していたことを伺い知ることができる。

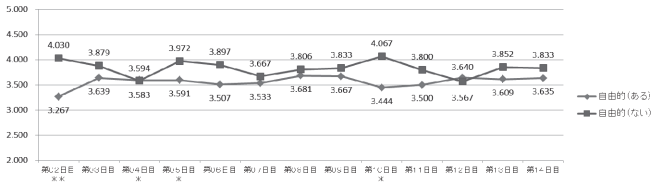

図7-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における得意な種目がある・ない別

8）運動することに自信がある・ない別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することに自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することに自信がある・ない別について見たのが図 8-1 である。13 日間の推移を通して、運動することに自信がないと答えた学生の平均値が、運動することに自信があると答えた学生の平均値を上回っていることから、運動することに自信がないと答えた学生の方が、積極的に授業に参加していたと伺い知ることができる。運動することに自信があると運動することに自信がないとの間に有意差が認められなかった。

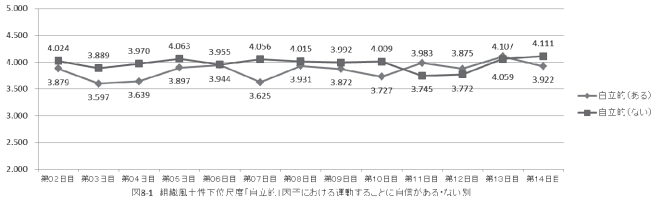

図8-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における運動することに自信がある・ない別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することに自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することに自信がある・ない別について見たのが図 8-2 である。13 日間の推移を通して、10 日目以外について、運動することに自信が

ないと答えた学生の平均値と運動することに自信があると答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、運動することに自信がある･ないに関係なく、仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。10 日目において運動することに自信があると運動することに自信がないとの間に有意差（p<0.05）が認められ、運動することに自信がないと答えた学生の方が、仲間と協力しながらサッカーに参加していたと伺い知ることができる。

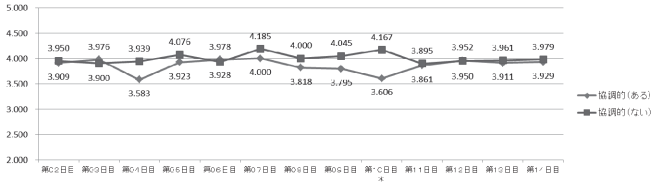

図8-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における運動することに自信がある･ない別

iii）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することに自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することに自信がある・ない別について見たのが図 8-3 である。13 日間の推移を通して、運動することに自信がないと答えた学生の平均値の方が、運動することに自信があると答えた学生の平均値より上回っていることから、運動することに自信がないと答えた学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。8 日目において運動するに自信があると運動することに自信がない間に有意差（p<0.05）が認められ、運動することに自信がないと答えた学生の方が消極的な態度でサッカーに参加していたことを伺い知ることができる。

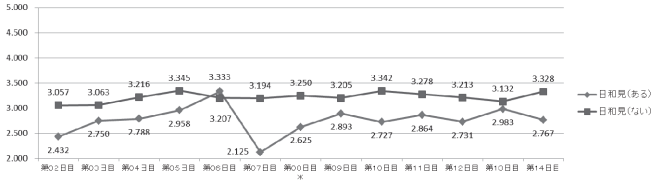

図8-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における運動することに自信がある･ない別

iv）組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することに自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することに自信がある・ない別について見たのが図 8-4 である。13 日間の推移を通して、運動することに自信がないと答えた学生の平均値の方が、運動することに自信があると答えた学生の平均値を上回っていることから、運動することに自信がないと答えた学生は周囲の状況に影響されることなくのびのびと授業に参加していたことを伺い知ることができる。10 日目において運動することに自信があると運動することに自信がないとの間に有意差（p<0.01）が認められ、運動することに自信がないと答えた学生の方がのびのびとサッカーに参加していたことを伺い知ることができる。

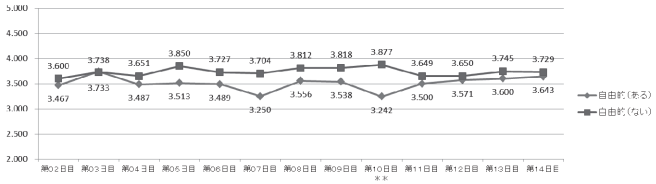

図8-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における運動することに自信がある･ない別

9）コミュニケ-ションをとることが得意・不得意別による比較

i）組織風土性下位尺度「自立的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別

について見たのが図 9-1 である。13 日間の推移を通して、コミュニケ-ションをとることが得意と答えた学生の平均値とコミュニケーションをとることが不得意と答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、コミュニケーションをとることが得意・不得意に関係なく積極的に授業参加していたことを伺い知ることができる。コミュニケーションをとることが得意と不得意との間に有意差が認められなかった。

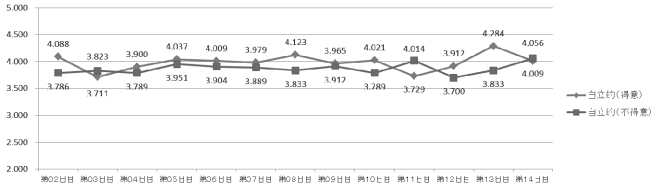

図9-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別について見たのが図 9-2 である。13 日間の推移を通して、コミュニケ-ションをとることが得意と答えた学生の平均値とコミュニケーションをとることが不得意と答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、コミュニケーションをとることが得意・不得意に関係なく、仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。コミュニケーションをとることが得意と不得意との間に有意差が認められなかった。

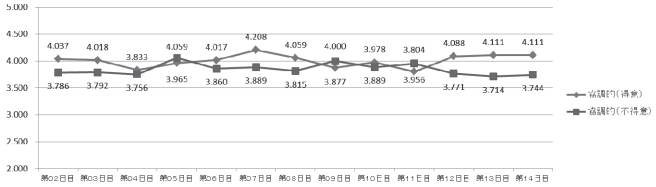

図9-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別について見たのが図 9-3 である。13 日間の推移を通して、6 日目までは、コミュニケーションをとることが得意と答えた学生の平均値がコミュニケーションをとることが不得意と答えた学生の平均値を上回り、7 日目以降は、コミュニケーションをとることが不得意と答えた学生の平均値がコミュニケーションをとることが得意と答えた学生の平均値を上回っている。このことから、6 日目まではコミュニケーションをとることが得意と答えた学生の方が、7 日目以降はコミュニケーションをとることが不得意と答えた学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたことを伺い知ることができる。コミュニケーションをとることが得意と不得意との間に有意差が認められなかった。

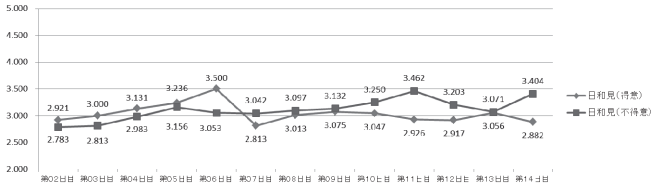

図9-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別について見たのが図 9-4 である。13 日間の推移を通して、コミュニケ-ションをとることが得意と答えた学生の平均値とコミュニケーションをとることが不得意と答えた学生の平均値がほぼ同値であることから、コミュニケーションをとることが得意・不得意に関係なく周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで授業に参加していたことを伺い知ることができる。コミュニケーションをとることが得意と不得意との間に有意差が認められなかった。

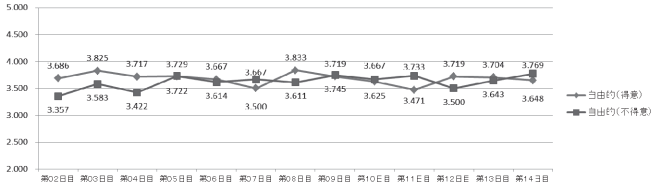

図9-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子におけるコミュニケ-ションをとることが得意・不得意別

１０）体力に自信がある・ない別による比較

ｉ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における体力に自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における体力に自信がある・ない別について見たのが図 10-1 である。13 日間の推移を通して、体力に自信がないと答えた学生の平均値が、体力に自信があると答えた学生の平均値を若干であるが上回っていることから、体力に自信がないと答えた学生の方が、積極的に授業に参加していたことを伺い知ることができる。体力に自信があると体力に自信がないとの間に有意差は認められなかった。

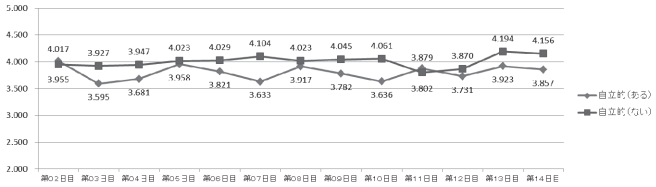

図10-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における体力に自信がある・ない別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における体力に自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における体力に自信がある・ない別について見たのが図 10-2 である。13 日間の推移を通して、体力に自信がないと答えた学生の平均値が、体力に自信があると答えた学生の平均値を上回っていることから、体力に自信があると答えた学生の方より仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。体力に自信があると体力に自信がないとの間に有意差は認められなかった。

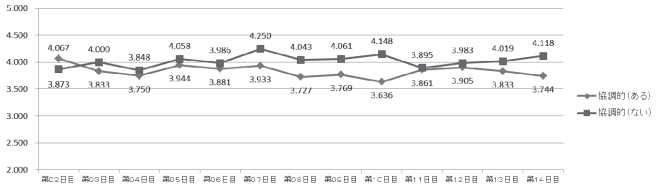

図10-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における体力に自信がある・ない別

ⅲ）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における体力に自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における体力に自信がある・ない別について見たのが図 10-3 である。13 日間の推移を通して、6 日目以外は、体力に自信がないと答えた学生の平均値が、体力に自信が

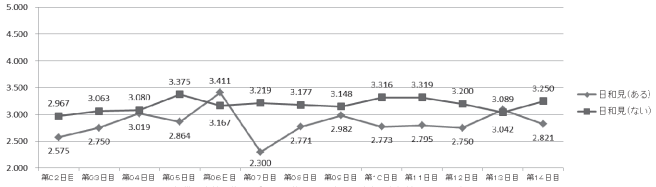

図10-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子に対する体力に自信がある・ない別

あると答えた学生の平均値を上回っていることから、体力に自信がないと答えた学生の方が、消極的な態度で授業に参加していたと思われる。体力に自信あると体力に自信がないとの間に有意差が認められなかった。

ⅳ）組織風土性下位尺度「自由的」因子における体力に自信がある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における体力に自信がある・ない別について見たのが図10-4 である。13 日間の推移を通して、体力に自信がないと答えた学生の平均値が、体力に自信がないと答えた学生の平均値を上回っていることが多いことから、体力に自信がないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースで授業に参加していたことを伺い知ることができる。6 日目について体力に自信があると体力に自信がないとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、体力に自信がないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでキックベースに参加していたことを伺い知ることができる。8 日目について体力に自信があると体力に自信がないとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、体力に自信がないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでアルティメットに参加していたことを伺い知ることができる。10 日目について体力に自信があると体力に自信がないとの間に有意差（$p<0.001$）が認められ、体力に自信がないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでサッカーに参加していたことを伺い知ることができる。

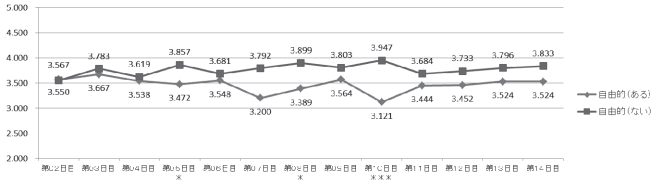

図10-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における体力に自信がある・ない別

１１）過去の体育授業で嫌なことがある・ない別による比較

ⅰ）組織風土性下位尺度「自立的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自立的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別について見たのが図 11-1 である。13 日間の推移を通して、過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の平均値と過去の体育授業で嫌なことがあると答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、過去の体育授業で嫌なことがある・ないに関係なく積極的に授業に参加していたことを伺い知ることができる。過去の体育授業で嫌なことがあると過去の体育授業で嫌なことがないとの間に有意差は認められなかった。

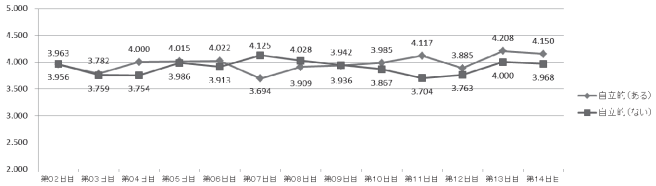

図11-1 組織風土性下位尺度「自立的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別

ⅱ）組織風土性下位尺度「協調的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「協調的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別について見たのが図 11-2 である。13 日間の推移を通して、過去の体育授業で嫌なことがないと答

えた学生の平均値と過去の体育授業で嫌なことがあると答えた学生の平均値は、あまり相違がなく高い平均値を示していることから、過去の体育授業で嫌なことがある・ないに関係なく、仲間と協力し合いながら授業に参加していたことを伺い知ることができる。過去の体育授業で嫌なことがあると過去の体育授業で嫌なことがないとの間に有意差は認められなかった。

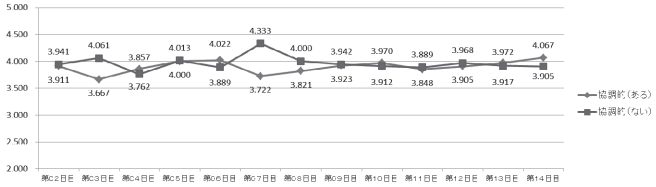

図11-2 組織風土性下位尺度「協調的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別

iii）組織風土性下位尺度「日和見的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「日和見的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別について見たのが図 11-3 である。13 日間の推移を通して、過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の平均値と過去の体育授業で嫌なことがあると答えた学生の平均値がほぼ同値であることから、過去の体育授業で嫌なことがある・ないに関係なく消極的に授業に参加していたことを伺い知ることができる。過去の体育授業で嫌なことがあると過去の体育授業で嫌なことがないとの間に有意差は認められなかった。

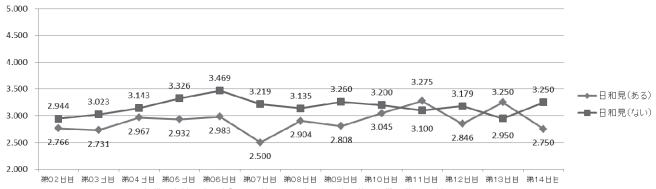

図11-3 組織風土性下位尺度「日和見的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別

iv）組織風土性下位尺度「自由的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別比較

組織風土性下位尺度「自由的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別について見たのが図 11-4 である。13 日間の推移を通して、7 日目以外は、過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の平均値と過去の体育授業で嫌なことがあると答えた学生の平均値がほぼ同値であることから、過去の体育授業で嫌なことがある・ないに関係なくのびのびと授業に参加していたことを伺い知ることができる。7 日目において過去の体育授業で嫌なことがあると過去の体育授業で嫌なことがないとの間に有意差（$p<0.05$）が認められ、過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の方が周囲の状況に影響されることなくのびのびと自分のペースでドッジボールに参加していたことを伺い知ることができる。

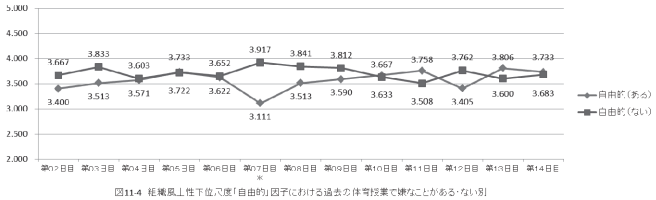

図11-4 組織風土性下位尺度「自由的」因子における過去の体育授業で嫌なことがある・ない別

Ⅲ．まとめ

（1）学生の属性による組織風土得点の比較

①性別において、4 日目の「協力的」因子、8 日目の「自立的」因子と「協調的」因子、12 日目の「自立的」因子と「自由的」因子に有意差が認められた。いずれも男子学生の平均値の

方が高いことから、男子学生は組織風土を構成していく上で影響力があると考えられる。②運動することが好き・嫌い別では 7 日目の「自立的」因子と「協力的」因子に有意差が認められた。いずれも運動することが好き答えた学生の平均値の方が高かった。7 日目は半数の学生が実習に行き、通常の半数で授業をおこなった。運動が嫌いと答えた学生は、従来の授業と違うことで学習意欲が下がったのではないかと思われる。③体育授業が好き・嫌い別では、3 日目の「自立的」因子、7 日目の「自立的」因子と「協力的」因子に有意差が認められた。3 日目の授業内容はレクレーションであり、3 日目の「自立的」因子において、体育授業が嫌いと答えた学生の平均値の方が高いことから、体育授業が嫌いと答えた学生は、レクレーションを好むと考えられる。7 日目は半数の学生が実習に行き、通常の半数で授業をおこなった。体育授業が嫌いと答えた学生は、従来の授業と違うことで学習意欲が下がったのではないかと思われる。④選択種目（生涯スポーツ）が好き・嫌い別では、6 日目の「自由的」因子に有意差が認められた。選択種目が嫌いと答え学生の平均値の方が高いことから、キックベースを好むと考えられる。⑤私生活で運動することがある・ない別では、6 日目の「自由的」因子、8 日目の「日和見的」因子、9 日目の「日和見的」因子、13 日目の「日和見的」因子に有意差が認められた。⑥いずれも運動することがないと答えた学生の平均値の方が高く、6 日目の結果からキックベースを好み、8、9、13 日目の結果から授業に積極的に参加していなかったと考えられる。⑦運動することが得意・不得意別では、3 日目の「自立的」因子、10 日目の「日和見的」因子と「自由的」因子、11 日目の「日和見的」因子と「自由的」因子に有意差が認められた。いずれも運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高く、3 日目の結果からレクレーションを好み、10、11 日目の結果から授業に積極的に参加していなかったと考えられる。⑧得意種目がある・ない別では、2 日目の「自由的」因子、3 日目の「自立的」因子、4 日目の「自由的」因子、6 日目の「自由的」因子、10 日目の「日和見的」因子と「自由的」因子に有意差が認められた。いずれも得意種目がないと答えた学生の平均値の方が高く、10 日目の「日和見的」因子以外は肯定的な意味を持つ因子であることから、得意種目がないと答えた学生の方が積極に授業参加していたと思われる。⑨運動すること自信がある・ない別では、8 日目の「日和見的」因子、10 日目の「協調的」因子と「自由」的因子に有意差が認められた。いずれも運動することに自信がないと答えた学生の平均値の方が高く、授業内容がアルティメットの時は消極的であり、サッカーの時は積極的に参加していたと考えられる。⑩体力に自信がある・ない別では、5、8、10 日目の「自由的」因子に有意差が認められた。いずれも体力に自信がないと答えた学生の平均値の方が高く、授業にのびのびと参加していたと考えられる。⑪過去の体育授業で嫌なことがある・ない別では、7 日目の「自由的」因子に有意差が認められた。過去の体育授業で嫌なことがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、ドッジボールにのびのびと参加していたと考えられる。

以上の結果から、運動や体育に肯定的な考えを持っている学生は、自発的に授業参加していることを伺い知ることができた。否定的な学生は、授業内容や授業状態の違いによりモチベーションが変化することを伺い知ることができた。また、授業内容がレクレーションや慣れ親しんだ運動競技の時に、運動や体育に否定的な考えを持っている学生の方が、肯定的な組織風土

において高い平均値なっていた。このことから、運動や体育に対して否定的な考えを持っていても、授業内容が運動や体育に否定的な考えを持っている学生に適していると組織風土を構築していく上で良い影響力を与えることがあると考えられる。

（２）組織風土性下位尺度による分析

①性別では、「自立的」、「協力的」、「自由的」因子では男子学生の平均値の方が高く、「日和見的」因子では女子学生の平均値の方が高いことから、男子学生は肯定的な組織風土の構成に影響力を持っていると考えられる。②運動することが好き・嫌い別では、どの属性下位を見ても運動することが嫌いと答えた学生の平均値の方が高いことから、良い意味でも悪い意味でも組織風土の構成に影響を与えると考えられる。また、運動すること好きと答えた学生の平均値が肯定的な組織風土では、平均的に高く、否定的な組織風土では平均的に低いことから、授業内容や授業状態の変化に影響を受けないことが分かった。③体育授業が好き・嫌い別では、「自立的」、「日和見的」、「自由的」因子では体育授業が嫌いと答えた学生の平均値の方が高いことから、体育授業が嫌いだからと言って組織風土を悪くしていると言い切れないことが分かった。④選択種目（生涯スポーツ）が好き・嫌い別では、選択種目が好きと答えた学生の平均値は、どの属性下位をみても安定して高い平均値であるが、嫌いと答えた学生の平均値は、高低差の激しい起伏のグラフを描いていることから、授業内容や授業状態に影響を受けやすいことが分かった。⑤私生活で運動することがある・ない別では、「日和見的」因子以外の下位属性では平均値に大差がなかったが、「日和見的」因子では一貫して、私生活で運動することがないと答えた学生の平均値の方が高いことから、消極的な態度で授業に参加していたと考えられる。⑥運動することが得意・不得意別では、「日和見的」因子以外の下位属性では平均値に大差がなかったが、「日和見的」因子では一貫して、運動することが不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、消極的な態度で授業に参加していたと考えられる。⑦得意な種目がある・ない別では、「自立的」因子、「協調的」因子において平均値に大差が見受けられなかった。「日和見的」因子と「自由的」因子において得意な種目がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、消極的な態度でありながら自分のペースで授業に参加しいたのではないかと思われる。⑧運動することに自信がある・ない別では、どの属性下位を見ても運動することに自信がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、良い意味でも悪い意味でも組織風土の構成に影響力を与えると考えられる。⑨コミュニケーションをとることが得意・不得意別では、「自立的」因子、「協調的」因子、「自由的」因子において得意と答えた学生の平均値の方が高く、「日和見的」因子においては不得意と答えた学生の平均値の方が高いことから、肯定的な組織風土では得意と答えた学生の影響が、否定的な組織風土では不得意と答えた学生の影響が及ぼしていると考えられる。⑩体力に自信がある・ない別では、どの属性下位を見ても体力に自信がないと答えた学生の平均値の方が高いことから、良い意味でも悪い意味でも組織風土の構成に影響を与えると考えられる。⑪過去の体育授業に嫌ことがある・ない別では、「協調的」因子、「日和見的」因子、「自由的」因子においてはないと答えた学生の平均値の方が高いことから、良い意味でも悪い意味でも組織風土の構成に影響力を与えると考えられる。

Ⅳ．結論

本研究の一つ目の目的は先行研究による体育授業における組織風土の測定項目が有効なものであるかを調査することであった。学生の属性による組織風土得点比較を有意差があるものを検討しみると、「自立的」、「協調的」因子など肯定的な組織風土には、運動や授業に対して肯定的な態度の平均値が高いこと、「日和見的」因子として否定的な組織風土には、運動や授業に対して否定的な態度の平均値が高いなどの結果から組織風土を測定できる項目であると考えられる。「自由的」因子について見ると、運動や授業に対して肯定的な態度の平均値が高い場合と運動や授業に対して否定的な態度の平均値が高い場合がある。「自由的」の解釈の仕方により、自分勝手なペースでのびのびと授業参加していたというような自律性の無い自由奔放という意味での自由と、自分に合ったペースでのびのびと授業参加していたというような誰からの束縛されない自分の思い通りに学習が進められるという意味での自由と捉えることができる。このことから「自由的」を肯定的組織風土と捉えることも否定的組織風土と捉えることもできる。「自由的」の解釈について学習者属性による組織風土得点や組織風土性尺度の因子に注意深く分析し、肯定的組織風土による「自由的」と否定的組織風土による「自由的」とのどちらかを見極める必要がある。

二つ目の目的は学生が感じた雰囲気の変化を測定することであった。体育授業の組織風土を因子分析により 4 因子から検討してみた。「自立的」、「協調的」因子のような肯定的な組織風土では、運動や授業に対して肯定的な態度の平均値は安定して 13 日間高いことが多かった。「日和見的」因子のような否定的な組織風土では、運動や授業に対して否定的な態度の平均値が 13 日間高いことが多かった。また、授業内容や授業状態によりグラフの高低差が現れた。運動や授業に対して否定的な態度の学生は周囲の状況や環境により左右される傾向があると思われる。授業内容がレクレーション要素を含む内容の時に、運動や授業に対して肯定的な態度の平均値より運動や授業に対して否定的な態度の平均値が高くなることも多々あったことから、運動や授業に対して否定的な態度の学生は競争的な内容より共同的な内容を好むのではないかと思われる。

学生の属性による組織風土得点の比較や組織風土性下位尺度による分析の結果から、肯定的な組織風土では、運動・スポーツや体育授業に肯定的な態度である学生の平均値が高く、否定的な組織風土では、運動・スポーツや体育授業に否定的な態度である学生の平均値が高かったことからの結果から今回の調査項目が適性であると考えられる。

Ⅴ．今後の課題

先行研究である組織風土を 16 次元から調査項目を作成されているのを、体育授業に使用できるように端々の文言を変更し、同項目数でアンケート調査を行った。その結果から因子分析を行い 8 因子 68 項目の質問項目を作成した。この質問項目を元にして 8 因子 16 項目の質問項目を作成し、アンケート調査を行い因子分析の結果、第 1 因子「自立的」、第 2 因子「協調的」、第 3 因子「日和見的」、第 4 因子「自由的」の 4 因子 16 項目にとなった。今回の組織風土の構成として第 1 因子に「自立的」であることから、学生の自発的学習行動であったことを伺うことができ、第 2 因子「協調的」であることから、学生同士の協力があったことを伺うことがで

きる。これらから自発的な態度を持って学習者同士で協力しながら授業に参加できていることは、学生にとって理想的な授業環境であったと思われる。しかし、体育授業が 4 種類の雰囲気で構成されていると考えると無理がある。このことについては今後の研究対象として追究していきたい。また、毎回アンケートを実施していく上で 16 項目は多すぎるため、質問項目を削減した上で組織風土を正しく測定できる項目を開発していく必要がある。

引用文献

1）宇土正彦、高島稔、永島惇正、高橋健夫　編著　（1992）　「新訂　体育科教育法講義」　大修館書店　p63

2）Litwin,G.H.&Stringer,Jr.,R.A.(1968).
Motivation and Organizational Climate.,Boston:Harvard Business School,
Division of Research(占部都美・井尻昭夫訳(1974)『経営風土』白桃書房)

参考文献

3）関本昌秀・三沢光男　「組織風土とパーナリティの適合性と組織帰属意識、定着意識、職務関与、業績との関係に関する一考察」　豊橋創造大学紀要

4）宮入小夜子　「組織風土の特性尺度の開発と活用ー企業変革における組織風土特性尺度の活用の可能性についてー」　日本橋学館大学

5）関本昌秀・鎌形みや子・山口祐子　「組織風土尺度の試み（Ⅰ）」　豊橋創造大学紀要

荒井弘和　（2010）　「大学体育授業に伴う一過性の感情が長期的な感情および運動セルフ・エフィカシーにもたらす効果」　体育学研究

荒牧亜衣　（2010）　「教養教育としての大学体育」　目白大学短期大学部研究紀要

バーナード・ベレルソン、ガーリー・A・スタイナー著　犬田　充訳　（1968）　「行動科学」　誠信書房

D．S．ピュー・D．J．ヒックソン・C．R．ヒニングス著者　北野利信訳　（1974）「組織とは何か」　評論社

後藤幸男・三木信一・中橋国蔵　（1994）　「新経営管理論講義」　中央経済社

伊丹敬之・加護野忠男　（1989）　「ゼミナール　経営学入門」　日本経済新聞出版社

金井壽弘　（1999）　「経営組織」　日本経済新聞社

加藤勝康・飯野春樹　（1987）　「組織道徳と組織文化」　バーナード　評論社

三木ひろみ　三波千穂美　（2010）　「体育専攻大学生のキャリアプランニング教育:将来の進路に向けて行動化を促す総合演習の効果」」　筑波大学体育科学系紀要

水月晃　笠井妙美　西田明史　柿原一貴　則元志郎　（2009）　「大学体育における知識・能力の形成(3):生涯スポーツ実践に向けた実験的授業」　熊本大学教育学部紀要

野中郁次郎　(1978)　「組織現象の理論と測定」　千倉書房

岡部慶三・竹内郁郎・飽戸弘　（1972）　「社会心理学」　新曜社

塩原勉著　「組織と運動の理論」　（1976）　新曜社

田尾雅夫　（1991）　「組織の心理学」　有斐閣ブックス

宇土正彦・八代勉・中村平　（1989）　「体育経営管理学講義」　大修館書店

梅本暁夫・大山正　（1992）　「心理学への招待」　サイエンス社

若林満・松原敏浩・城戸康彰・渡辺直登　（1988）　「組織心理学」　ナカニシヤ出版

山津幸司　堀内雅弘　（2010）　「週１回の大学体育が日常の身体活動量およびメンタルヘルスに及ぼす影響」　大学体育科学
山本安次郎　（1956）　「新訳　経営者の役割」　Ｃ．Ｉ．バーナード　ダイヤモンド社
八代勉・中村平　「体育・スポーツ経営学講義」　（2002）　大修館書店